

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価 2016年版、CASBEE 環境負荷低減性評価 2016年版、CASBEE ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量評価 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中種区春岡二丁目計画	階数	地上12F
建設地	名古屋市中種区春岡二丁目101番他7筆	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	68人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027/9/30 予定	評価の実施日	2026/1/8
敷地面積	492㎡	作成者	
建築面積	217㎡	確認日	2026/1/8
延床面積	1,840㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 93%

③上記+②以外のオンサイト手法: 93%

④上記+オフサイト手法: 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 計画地は、大通り沿いに面した市街地にあり、狭小敷地に効率的に住棟を配置した。また、遮熱環境の緩和と共に潤いのある住宅環境となるように配慮した。		
<b>Q1 室内環境</b> 南側には開口部を大きく確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。	<b>Q2 サービス性能</b> 建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来るように努めた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 北側のエントランス壁面は、西側大通りからの視線に対して、タイルの凹凸や連続性を通して歩行者・居住者の視線を柔らかく受け止め、生活環境が豊かになるよう努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性能4等級の断熱仕様、一次エネルギー消費量5等級の性能を確保し、環境負荷の低減に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型設備機器の導入や部材の再利用可能性の向上に努めた。また、有害物質を含む材料の不使用により、環境への配慮に努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離を取ることで、日照・プライバシー等への配慮を行った。また、西側道路境界に地被混植を施すことで環境悪化の低減を目指した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市千種区春岡二丁目計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR1	エネルギー	4.1	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.0</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.8
	
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.3
	
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.0
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。